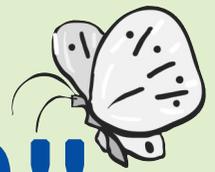


特集 JPS昆虫切手部会が選ぶ



『昆虫切手』ベスト50!!

蝶切手を中心に、世界中で数多くの切手が発行されている“昆虫切手”。今回はJPS昆虫切手部会の方々にご協力をいただき、“〈昆虫切手〉ベスト50!!”をご紹介します。多種多様な昆虫切手の数々をお楽しみください。(編) [構成・監修] JPS昆虫切手部会



1位

ヨーロッパアカタテハ (スイス・1950年)

児童福祉のための付加金付き切手。1950年から1957年まで昆虫をテーマに発行され、計31種の昆虫切手が発行された。クールボアジェ社によるグラビア多色刷り。ヨーロッパアカタテハは、ヨーロッパ全土に生息し、黒色の前翅(ぜんし)に赤色の帯が横切り、翅(はね)の先端に白の斑点があるのが特徴。[250%]

日本の純昆虫切手第1号で、国蝶。切手に描かれているのはオス。翅の表面は紫色の輝きを持つ。幼虫の食樹はエノキ。成虫は樹液を吸う。最近、生息数が減っており、各地で保護活動が行われている。[250%]



2位

3位

ニシキオオツバメガ (マダガスカル・1960年)

フランスで印刷された多色刷凹版の美しい切手。ニシキオオツバメガは、マダガスカルの固有種で、蛾の中で最も華麗で美しい種。開張(翅を広げた際の長さ)10cm。19世紀には、この美しい翅を使って、人々は身を飾り立てた。後翅は長く、細い尾状の突起が何本もある。[200%]





4位

**アカエリトリバネアゲハ
(サラワク・1950年)**

世界最初の純蝶切手で、マレーシア独立前の英領時代の発行。マレー諸島特産のトリバネアゲハで、切手ではわからないが、独特の長い前翅は黒地に緑色のコントラストが鮮やかで、赤色の襟、漆黒の胴を持つ。マレーシア、スマトラ、ボルネオに生息するが、現在採集禁止となっている。

5位

**カイコ蛾
(レバノン・1930年)**

昆虫切手の一番切手で、養蚕の国際会議開催を記念し、6種同図案で発行。カイコ蛾は、長い間、人によって飼育されてきた。胴は丸く毛が密生し、翅は白色で系統によっては褐色味をおび、成虫になっても飛ぶことができない。幼虫はイラクサやクワを食し、絹糸で繭を作り、その中でサナギとなる。



**キマダラフタオチョウ
(マダガスカル・1960年)**

印面いっぱいに蝶が描かれた美しい切手。フランスでの印刷。アフリカは、フタオチョウの天国で大型種が多いが、その中でも特に目立つのがこのマダガスカルの固有種で、美しい形をしている。[160%]

6位

**一番切手をはじめ
昆虫切手のポイント
となる切手がベスト10
にランクイン!**

※2〜3枚、特記外、180%拡大。

【さまざまな昆虫が切手に】

ひとくちに昆虫切手と言っても、その種類は多く、図柄に蝶や蛾を描いたものをはじめ、ハチ、トンボ、セミ、蚊、バッタ、ホタル、テントウムシ、甲虫など、さまざまな昆虫が切手になっています。

昆虫そのものをメインテーマにして、印面から昆虫の種が判別できるものを「純昆虫切手」と称し、印面の片隅に昆虫が小さく描かれていたり、抽象的で種の判別ができないものを「準昆虫切手」と呼んで区別しています。

当初、昆虫切手を発行する目的は、自国に昔から生息する固有種を紹介するためで、初期の頃はすべて単片が主流でした。しかし、最近は環境問題や地

球温暖化が深刻化するにつれ生態系の保全などを勘案するとともに、新興国などからはいわゆる外貨獲得の目的で自国産でないものを描いて、これを連刷シートや小型シートの形で発行するものが幅をきかせるようになってきました。

【昆虫切手発行の変遷】

純昆虫切手の一番切手は、養蚕の国際会議開催を記念し、レバノンで1930年に発行された切手で、蚕の幼虫、繭、成虫を描いた同図案6種の切手(5=順位、以下同)です。素朴ですが、魅力ある切手です。

昆虫切手の中で最も発行数が多く、また集める人が多いのが蝶の切手です。蝶の一番切手は、1950年にサラワクから発行されたアカエリトリバネアゲ



7位 **カストニア蛾**
(チリ・1948年)
博物学者GAYの「チリ博物誌」出版100年記念切手より。チリ周辺にしかいない蛾で、蝶と同じように昼間飛び、触角も蝶のように先が膨らんだこん棒状で、通常の蛾の常識を破る珍しい蛾。



8位 **キシタアゲハ**
(タイ・1968年)
日本の大蔵省印刷局による印刷。東南アジアを代表する蝶で、オス、メスとも基本的に前翅が黒、後翅が黄金色。切手に描かれているのはオスで、メスの方がオスより大きい。[160%]



9位 **ナナホシテントウ(スイス・1952年)**
児童福祉切手。背中の黒点がラッキーナンバー「7」であるため、ヨーロッパでは幸運をもたらす昆虫として親しまれている。[200%]



10位 **パルナシウスアウトクラートル(アフガニスタン・1971年)**
パルナシウス属は世界で40種の仲間がいるが、其中最も美しい種。4,000m級の人が近づかない山岳地帯に生息する。

ハの切手(4)で、今日までに発行された1万種近い蝶切手の魁さきがけになります。

昆虫切手の歴史で、エポックメイキング(画期的)となったのが、昆虫をテーマに、1950年から1957年までスイスで毎年発行された児童福祉のための付加金付き切手です(1・9)。クールポアジェ社のグラビア多色印刷は、当時としては大変華麗なもので、切手収集家の間で注目的となりました。この切手と出会い、切手収集をはじめたという人が多数いたのも事実です。毎年4種(1953年は3種)、8年間で計31種の昆虫切手が発行され、人気となりました。

1962年に世界保健機関は、蚊によって媒介され、世界中で最も患者数の多い病気であるマラリアの撲

滅キャンペーンを行いました。それに協力して世界の大部分の国がマラリア撲滅の切手を発行します。ただし、日本での発行はなく、琉球からのみ発行されました。この時に発行された切手のほとんどは、撲滅キャンペーンのロゴのみを図案にしたものでしたが、世界中の国が昆虫をテーマとした切手を同時に発行したという点では、昆虫切手の歴史にとって特筆すべきことでした。

また1960年代のはじめ、旧フランス領独立国では、フランスで作られた多色刷凹版の美しい切手が発行されました。マダガスカルマダガスカルの蝶蛾切手(3・6)、カメルーンカメルーンのベニイロタテハの切手(11)などがそうです。しかし、多色刷凹版は長くは使われず、残念



11位

**ベニイロタテハ
(カメルーン・1962年)**

多色刷凹版切手。翅全体が赤く、黒っぽいふちどりがあるアフリカ特産の種。大きく描かれているのがオスで、右上の茶色っぽいのがメス。オスとメスで色が異なる。



12位

**ヨナグニサン
(ラオス・1965年)**

世界最大の蛾で、沖縄から中国、東南アジア、インドにかけて生息。翅は独特の形をしていて、褐色の濃淡のある模様で彩られている。



13位

**ラッフルズセセリ
(オーストラリア・1983年)**

普通切手10種中の低額切手。触角が蝶特有のこん棒のような形をしておらず、大きな頭と丈夫な胴、そしてやや小さめの三角形の前翅が特徴。[150%]

※4～5分、特記外、130%拡大。



14位

**ダナエツマアカシロチョウ
(セネガル・1963年)**

翅の先端の赤色が特徴。アフリカからイラン、インドに生息。切手にはオスが描かれている。

15位

**コウトウキシタアゲハ
(フィリピン・1969年)**

フィリピンでの最初の蝶切手。オスの後翅の黄色部分は、斜めから見ると美しい真珠色の幻光を発する。フィリピン、台湾南部の島・蘭嶼(ランショ)に生息。[150%]



ながら昆虫切手の例もあまり多くはありませんが、美しい昆虫切手としてもてはやされています。

『世界の昆虫切手(国別チェックリスト)』(JPS昆虫切手部会編)で確認すると、1988年までに発行された純昆虫切手の数は3,484枚になります。純昆虫切手の発行が増えてきた1950年からの39年間は、年間平均約90種の昆虫切手が発行されたことになります。昆虫切手収集における、のどかな時代です。

ところが、1990年代になると様相は一変し、昆虫切手の洪水が押し寄せてきます。1990年に約300種、1991年に約500種の昆虫切手が発行されたのがはじまりで、それ以降、毎年400～500種もの昆

虫切手が現れることになりました。これは切手の発行権をエージェントなどに譲渡した国が増えて、それらの国の名を冠した切手が市場にあふれ出ているためです。

2010年末までに発行された純昆虫切手は、概算で1万3,500種くらいになります。この中には1970年代に盛んだったペルシャ湾岸の土侯国の切手、最近のロシア連邦内の共和国で発行されたと称する切手は含んでいません。

【日本の昆虫切手】

日本の昆虫切手に目を向けると、準昆虫切手1号は1916年発行「裕仁立太子礼記念」10銭、「冠」と呼



16位
フィンランド・1986年
アポロウスバシロチヨウ
 結核予防切手。ヨーロッパの代表的なバルナシウス属の蝶。この種を描いた切手は、ヨーロッパ各国から発行されている。[150%]



17位
日本・1980年
ギフチョウ
(日本・1980年)
 第16回国際昆虫学会議記念。この会議は4年に1度、各国持ち回りで開催され、1980年に日本で初めて開催された。[150%]

11～20位は昆虫切手の代表格 の代表格 蝶蛾切手が独占！



18位
ペルー・1990年
クラウディナグリアス
(ペルー・1990年)
 世界最美と言われる蝶。アマゾン川流域とペルーに生息し、前翅の鮮やかな朱色が印象的。開張8cm。



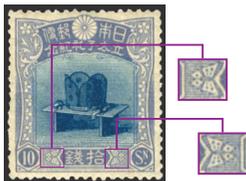
19位
中国・1963年
オオゴンテングアゲハ
(中国・1963年)
 20種のロングセットの中の1種。山岳地帯に生息する大珍種で、かつてはロンドンの大英博物館に少数の標本がある程度だった。



20位
オーストラリア・1983年
オオルリアゲハ
(オーストラリア・1983年)
 オーストラリア北部に生息。翅には南米のモルフォ蝶に匹敵する輝きがある。[150%]

ばれる切手で、印面下部に2頭の小さな蝶の紋様が描かれています。震災切手も準昆虫切手で、低額面と高額面の双方にトンボが描かれています。

日本の純昆虫切手1号は、1956年発行の普通切手75円(2)で、国蝶オオムラサキが描かれています。この切手は、日本の昆虫切手として最も優れたものではないかと思われます。前述のスイスの切手には



日本最初の準昆虫切手「裕仁立太子礼10銭」(1916年)。印面下部に、向かい合う蝶の紋様が描かれている。

及ばないものの、当時の多色刷グラビア切手としては秀逸の部類に入ります。

この切手から今年8月に発行されたオオルリシジミの切手(自然との共生シリーズ第1集)まで、日本の純昆虫切手は54種にのぼります。

【日本で印刷された外国の昆虫切手】

日本の印刷技術は優秀で、大蔵省印刷局製造による昆虫切手が外国郵政から数多く発行されています。台湾の昆虫6種(1958年/26)、ベトナムの不足料切手蝶蛾6種(1968年)、そしてタイでは1968年発行の蝶4種(8)以降、1984年、1989年、2001年と次々と発行されました。



21位

クリメナウラムジタテハ (ブラジル・1979年)

〈BRASILIANA'79〉記念。後翅の裏面に見える「88」の模様が特徴。



22位

ペレイデスモルフォ (ベネズエラ・1966年)

モルフォ蝶の一種。南米原産。西インド諸島を含む中南米に生息。



23位

アサギドクチョウ (ベリーズ・1975年)

高額普通切手。美しい青緑色の色彩と黒褐色の斑紋が特徴。通常、木の上空の高所を飛ぶ。



24位

コロラドハムシ (オーストリア・1967年)

第6回国際植物保護会議記念。背中中の縦縞模様が特徴。有名な害虫。



25位

オオカバマダラ (アメリカ・2010年)

アメリカで最もポピュラーな蝶。黒とオレンジの模様で、渡りをする事で有名。



26位

ナガサキアゲハ (台湾・1958年)

日本の大蔵省印刷局による印刷。台湾最初の昆虫切手で、6種の中のもの、高額の切手。描かれているのはメスで、縞目が美しい。

※6〜7枚、切手原寸。



27位

オオゴマダラ (台湾・1977年)

大きな翅を持つ優美な蝶。翅は半透明の灰白色で、黒の斑点がある。沖縄にも多く生息。開張10cm。



28位

チョウセンコムラサキ (ハンガリー・1959年)

ヨーロッパからアジア温帯地域の森林に生息。幼虫の食草はヤナギ。

【昆虫切手の楽しみ方】

これまでに発行された世界の昆虫切手は、実にその約75%が蝶蛾の切手です。姿も優美で、航空郵便などにもふさわしい図案ということで、こんな比率になったのでしょう。言い換えれば、これはコレクター側の要望でもあったわけです。

昆虫切手を集めていると、外国、とくにヨーロッパの国々では、蝶と蛾を区別することなく、セット発行している例が多いことに気づかれると思います。生物分類学的には、蝶と蛾は同類なのです。前述の純昆虫切手の一番切手であるカイコの切手(レバノン・1930年/5)なども素晴らしい切手ですし、その後もニシキオオツバメガ(3)など熱帯産の美しい蛾を描

いた切手が数多く発行されています。

蝶蛾以外の甲虫、トンボ、ミツバチ、セミ、バッタなどの切手も、最近ではバラエティが豊富で、そのどれか1つのテーマだけでも4〜5フレームの展示出品が可能という時代になりました。切手単片だけでなく、小型シート、初日カバー、マキシマム・カードや切手帳、これらの切手を貼った実通カバーなども、予算の許す範囲で集めておかれると、昆虫切手収集の楽しみ方が倍増します。

昆虫切手に興味を持たれた方は、切手市(各国の(スタンプショウ)など)や新切手情報などを知るためにも、まずは同好者のグループに参加されることをお勧めします。(文：正野俊夫、西田豊穂、松林 豊/五十音順)



29位 **ゴライアストリバナエゲハ**
(インドネシア・1993年)
大型で豪華絢爛な色彩をした蝶。開張16cm。メスはオスより巨大で開張21cm。



30位 **ウラギンフタオチョウ**
(中央アフリカ・1961年)
表の翅はきれいではないが、翅の裏側が銀色で美しいため、この名が付けられた。



31位 **シロオピアゲハ**
(ベトナム・1986年)
後翅には乳白色の斑紋の帯があり、前翅まで続く。開張9~10cm。



32位 **クジャクチョウ**
(ベルギー・1993年)
翅の目玉模様は、鳥の攻撃を急所からそらすためと言われている。開張5.5~6cm。



33位 **イサベラミズアオ**
(フランス・1980年)
自然保護切手。ヨーロッパに分布する蛾の中で最も美しい種。ピレネー山脈の森林にも生息。



34位 **フィジーナンヨータマムシ**
(フィジー・2000年)
体の表面が紅色の金属光沢で覆われている美しいタマムシ。



35位 **コノハチヨウ**
(日本・1985年)
昆虫切手シリーズ20種の中の1種。その名のとおり、枯れ葉に擬態している蝶。



36位 **ヒトリガ**
(モンゴル・1974年)
前翅は褐色と白色で、後翅は赤色に青味がかった黒色の斑点がある。

コラム① 加刷切手とエラー切手

郵便料金の改正や革命による国名変更などの理由で、急に新切手が用意できない場合、従来の切手に新料金や新国名を加刷して発行されることがあります。このほか、切手展開催などの記念事項が加刷されることもあり、これらは昆虫切手にも多く見られます。

切手は有価証券のため、切手発行前には通常厳重なチェックが行われますが、その穴をぐり抜けて市場に出てきたものもあります。加刷切手においても、二重加刷や逆加刷など、さまざまなエラーが見られます。



[90%]

額面の加刷(ニュージ
ーランド・1971年)。



記念事項の加刷(イン
ドネシア・1993年)。



二重加刷(ベリ
ー・1976年)。



二重加刷+逆加刷
(レソト・1987年)。

※カコミ内、特記外、75%縮小。

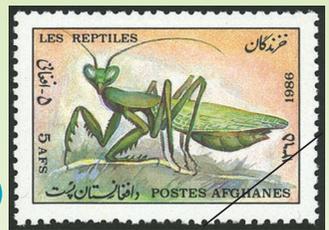


※8〜9センチ、切手原寸。

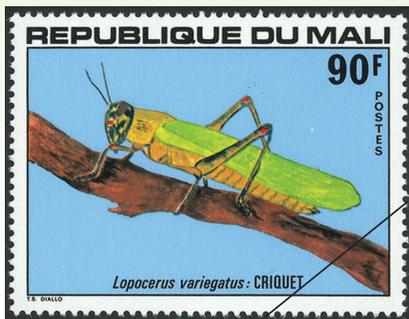
37位
オオフクロチョウ
ブラジル・1979年
 翅の裏面にフクロウの目のように見える目玉模様を持ち、止まる時は必ず翅を閉じる。



38位
ドルリーオオアゲハ
(コートジボワール・1978年)
 アフリカ最大の蝶で、オスは開張20cm以上。通常、蝶はメスの方が大きい、この種のメスは10cm程。



39位
カマキリ
(アフガニスタン・1986年)
 前脚が鎌状に変化し、他の昆虫などを捕食する肉食性の昆虫。カマキリの仲間は、全世界で2,000種とも言われる。



40位
バッタ
(マリ・1978年)
 サバクトビバッタの一種。移動距離も大きく、アフリカでは時折大発生し、作物に大きな被害を与えている。



41位
ツマベニチョウ
(スリランカ・1999年)
 アジア最大のシロチョウ。開張9〜10cm。前翅の先端部がオレンジ色になっている。



42位
ミツバチ
(日本・1985年)
 第30回国際養蜂会議記念。花の蜜を加工して、巣に蓄え蜂蜜とする。特にセイヨウミツバチは、世界各国で養蜂に用いられており、ハウス栽培のイチゴなどの受粉にも使われる。

コラム②

蝶などの昆虫をかたどった“大型変形切手”

最近では世界各国から、さまざまな昆虫切手が発行されています。なかでも目に付くのが、蝶やトンボなどをかたどったとてつもなく大型の切手(小型シート)です。

右の蝶とトンボは、ともに横幅が140〜150ミリ程あり、こんな超大型の切手を封書に貼って出す人はいないと思いますが、これらは収集家を対象とした発行であり、集める側としては悩ましいところです。

また昆虫切手の変わり種といえば、1968年に発行されたブータンの立体切手が挙げられます。蝶を題材とした単片8種と4種を組み合わせた小型シート1種の発行で、当時大きな話題を呼びました。



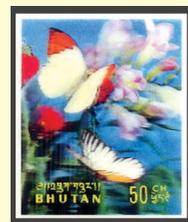
蝶をかたどった小型シート(ガンビア・2002年)。**[40%]**



トンボをかたどった小型シート(ピトケアン諸島・2009年)。**[40%]**



[25%]



ブータンから発行された立体切手(1968年)。

※カコミ内、特記外、50%縮小。



43位
ベニコノハ
(ベネズエラ・1966年)
翅の形が普通の蝶と異なっており、前翅は紅色と黒の2段になっている。



44位
ミモザオナガヤマモユ
(ケニア・1995年)
名前のとおり、長い尾翅が特徴。国際昆虫研究センター25周年記念での発行。



45位
ヤマキチョウ
(アルジェリア・1981年)
翅全体が黄色で、小さな赤い斑点がある。



46位
ヒメハルゼミ
(日本・1977年)
自然保護シリーズより。初夏に現れるゼミ。



47位
アリオンゴマジンミ
(ポーランド・1967年)
幼虫はアリの巣の中で育つ。



48位
ゴクラクトリパネアゲハ
(バブアニューギニア・1966年)
バブアニューギニア特産の種で、同国一部の山地に生息している。



49位
トンボ
ツルキナファン・1992年
シオカラトンボの一種。切手はイギリスのハリソン社で印刷された。



50位
ハナムグリ
(エルサルバドル・1994年)
ハナムグリの一種。体は光沢のあるメタル調の緑色で覆われている。

「JPS昆虫切手部会」のご案内

JPS昆虫切手部会は、1968年の創立で、昆虫切手の愛好者が昆虫切手に関する情報や切手の交換、研究発表を通じて、相互の親睦を深めることを目的としています。

例会を東京・目白の切手の博物館で毎月第2日曜日に開催し、また温泉地や昆虫採集地におもむき夏期例会を行い、年1回地方会員との交流会も実施しています。機関誌『昆虫切手部会報』は隔月(奇数月)発行で、毎年6月には昆虫切手展を開催し、部会員の日頃の収集活動の成果をまとめた多様な作品を展示しています。

年会費は3,000円、ジュニア1,500円です。お問い合わせやご入会の手続きは、下記代表世話人まで。

【お問い合わせ先】

〒335-0004 埼玉県蕨市中央1丁目
17-52-802 松林 豊
TEL&FAX: 048-431-5848

※JPS昆虫切手部会では、1989年に発行した『世界の昆虫切手(国別チェックリスト)』の続編となる『世界の昆虫切手Vol.2(1989-2010)』を刊行しました。1989年から2010年末までに発行された世界各国の純昆虫切手を国別で収録したチェックリストです(図版はなし)。B5判320頁で、価格は3,000円(別途、荷造送料300円)。ご希望の方は、はがき、またはFAXで、上記、松林宛にお申し込みください。



最新の昆虫切手の情報などを紹介している「昆虫切手部会報」230号より。年6回の発行(奇数月) B5判20~24頁。